鹿児島市立病院だより

和気神社　ふじ　撮影　美園俊明副院長

- 新年度を迎えて･･･病院長
- 事務局長新任挨拶
- ドクターヘリ　稼働４か月　経過報告
- 学術講演会･･･移植医療の現状
- ホームページリニューアル
- 接遇研修
- 新任医師、卒後研修医紹介
- 看護科新規採用者オリエンテーション
- 外来診療案内

病院広報・医療連携誌
平成２４年５月　第１１号

新年度を迎えて

鹿児島市立病院長
上津原　甲一

爽やかな新緑の五月、皆様には、ますますご清祥のことと存じます。
日頃から、医療連携に関しましては、多大なご協力を頂き、厚く御礼申し上げます。

2011 におきた東日本大震災も、一年を過ぎ、少しずつではありますが、復興の兆しが見えはじめ、新しい希望に向けた取り組みが進められています。

その中で感じたことは、私どもが見逃していた医療の原点を垣間見たことではないでしょうか。多くの被災者の方々が、医療を真に求め、医師、看護師の手を当てただけでも、安堵される状況がつくりだされていました。まさにこれが”手当”の由来ではないかと思うことでした。多くの医療従事者が、奉仕の精神で診療に望み、患者さん方が素直に感謝される状況は、久しく忘れられていた『医の原点』を思い出させました。

ところで、当院の本年度の大きな取り組みとしては、新病院の建設の設計が 6 月に終わり、いよいよ今年中には、建設工事が始まる予定です。『安心、安全な質の高い医療の提供』にむけて、利用しやすい病院、高度専門医療を提供する病院、災害時などにも機能を維持できる病院、環境にも配慮する病院づくりを目指したいと考えています。

また、新しい救急医療の夜明けとなりました、昨年 12 月に導入されたドクターヘリは、遠隔地の方々の朗報となました。4 か月を過ぎた現在、１７０回のフライトを重ね、多くの医療機関の連携と協力のもと、スムースに運行されています。次の段階として、市民の方々の救急を考慮し、ドクターカーの導入を検討したいと考えています。ドクターカー、ドクターヘリが整備されることにより、救急医療システムが完備するものと思われます。

次に、電子カルテの導入が進んでいる中で、当院も委員会が発足し、検討を進めてまいりましたが、本年度中の実施を目指しています。

更に、7 月からは、一部『院外処方』に切り替わります。医薬分業となる院外処方は、院内の待ち時間短縮、かかりつけ薬局を持つことで十分な説明が受けられ、複数受診による薬の重複や飲み合わせの危険が回避できる、後発薬品への変更などの利点があり、患者さん方への十分な説明を重ね、スムースな移行を願っています。

これまでに、多くの医療機関、介護福祉施設などのご支援とご協力を頂き、医療連携室も設立 5 年を過ぎました。これからも、更に連携を深め、充実させてまいりたいと思っております。

どうぞよろしくお願い申しあげます。

事務局長就任のご挨拶

鹿児島市立病院事務局長
南　勝之

甲突川のほとりが桜の花で彩られた時季も終わり、木々の緑が一段と鮮やかな季節になってきました。

４月に市立病院にまいりまして、かれこれ２０日が過ぎようとしております。

着任直後の数日間は、迷路のような建物の造りに戸惑い、また、院内で交わされる専門用語をはじめ、見るもの、聞くこと初めて経験することばかりで、大袈裟な表現をすると、文字通り、別世界に飛び込んだという思いがありました。

今でも、色んなことが、まだまだ手探りの状況で、未だに、職員の皆さんの顔と名前を覚えることさえ、苦労しております。

さて、幸いなことに、大病や大怪我で入院等の経験がなかったことから、これまで私の抱く病院のイメージといいますと、風邪気味のときに診てもらう、近所のクリニックであったり、定期的に通う歯医者さんといった程度のものでした。

今更ながら、市立病院の規模の大きさ、スタッフの数に目を見張るとともに、この先、県下の中核的総合病院としての病院事業に携わる一員として、改めて、身の引き締まる思いがしております。

今、市立病院は、大きな節目・転換期を迎えております。

新病院の建設はもとより、それらを踏まえた経営計画の策定をはじめとして、昨年末に運航が開始された「ドクターヘリ」の今後のスキームのあり方、電子カルテや院外処方の導入など様々な課題を抱え、また、平常の業務を遂行するうえにおいても、色々と懸案となっているものもあります。

じっくりと腰を据えて取り組まなくてはなりませんが、一方で、スピーディさも要求されております。

新米事務局長としては、「大変な時期に任を仰せ付かったな」という思いもありますが、事務局内はもちろん、医療・看護部門の皆さんとの連携を図るとともに、地域の医療機関の皆様方との繋がりも大切にしながら、市立病院の理念である「安心安全な質の高い医療の提供」、そして、「企業としての経済性の発揮と公共の福祉の増進」という公営企業としての究極の目標に向けて、真摯に取り組んでまいりたいと思います。

どうぞ、よろしくお願いいたします。

これまでの鹿児島県ドクターヘリ活動を振り返る

救命救急センター部長　吉原秀明

鹿児島県ドクターヘリは昨年 12 月 26 日、運航開始の日を迎えた。少ないヘリスタッフ、離れている出動ヘリポートなどのハンディキャップはあったが、救命効果を発揮できるシステムを目指してきた。特に、こだわってきたのはドクターヘリ活動の迅速性である。ここで、平成 23 年度の 97 日間の活動を振り返る。

ドクターヘリ要請件数 190 件は初年度 97 日間の活動としてはまずまずの出だしと考えている。出動件数は 136 件であった。傷病の内訳は表に示す。

さて、鹿児島県ドクターヘリの迅速性についての評価である。治療開始までの時間は、119 番覚知からドクターヘリが要請されるまでの時間に左右されるが、ドクターヘリの全国平均で 15 分もかかる。時間短縮のために鹿児島県が手本としたのは、全国最速の迅速性を誇る公立豊岡病院の『キーワード方式』である。この『キーワード方式』が鹿児島県における覚知からドクターヘリ要請までを 8.34 分と迅速な活動を可能とした。8 分台は昨年度の公立豊岡病院と同レベルである。しかし、この迅速性に満足してはいない。このタイミングで病院を出発しても現場に到着するまでには 24.8 分かかる（全国平均は 33 分）。覚知から平均 8 分後にはすでに現場に到着し、どんなに遅くても 15 分以内には到着するシステム（15 分ルール）を浸透させたドイツなど欧州の先進国と比較するとまだまだ改善の余地がある。鹿児島県ドクターヘリの挑戦はこれからである。

平成 23 年 12 月 26 日～平成 24 年 3 月 31 日

要請件数	出動件数	出動件数内訳				未出動件数	未出動件数内訳					診療人数	基地病院以外への受入人数	他施設受入率（%）
		現場出動（高速道路）	施設間搬送	出動後キャンセル	その他		時間外要請	天候不良	重複要請	出動前キャンセル	その他			
190	136	82 (1)	37	17	0	54	6	17	15	13	3	120	57	47.5

外傷	外傷の内数		心大血管疾患	心大血管疾患の内数		脳血管疾患	脳血管疾患の内数			その他	診療人数合計	周産期母子	周産期・母子の内数		小児	小児の内数	
	交通事故	労働災害		急性冠症候群	大動脈解離 大動脈瘤		クモ膜下出血	脳出血	脳梗塞				現場出動	施設間搬送		現場出動	施設間搬送
41	18	12	22	15	4	10	0	2	4	47	120	15	2	13	9	4	5

平成 23 年度　1. **現場出動**における平均的な経過時間

①	119番覚知　～　ドクターヘリ要請	8 分 21 秒
②	ドクターヘリ要請　～　離陸	6 分 55 秒
③	離陸　～　現場着陸	9 分 34 秒
④	現場滞在時間	25 分 31 秒
⑤	現場離陸　～　病院到着	16 分 58 秒
⑥	1出動あたりの平均飛行時間	21 分 03 秒

2. **施設間搬送出動**における平均的な経過時間

①	ドクターヘリ要請　～　離陸	9 分 32 秒
②	離陸　～　依頼元病院着陸	16 分 41 秒
③	依頼元病院滞在時間	13 分 30 秒
④	依頼元病院離陸　～　受入病院到着	30 分 23 秒
⑤	1出動あたりの平均飛行時間	30 分 05 秒

ドクターヘリ施設間搬送（ドクターヘリ出動までの部分）の案内

ドクターヘリをご利用頂く際に、ドクターヘリ出動までには以下の手順が必要です。

① 要請元病院は受入病院と交渉し転院先を決定します。

② 要請元病院または受入病院（鹿児島市立病院の場合）がフライトドクター及び運航管理担当者者（CS）にドクターヘリシステムの適応と運航の可否について打診します。

③ 要請元病院とフライトドクターの情報共有化に、下の施設間チェックリストを使用します。

④ 上記が決定したら、要請元病院から地元消防に連絡して頂き、ドクターヘリ要請を依頼していただきます。そのタイミングはCSまたはフライトドクターの助言に従って頂きたいと思います。
（注）要請元病院からCSへの連絡前に消防に連絡してしまうケースが多いので注意！

⑤ 受入病院にもドクターヘリによる搬送決定を通知して下さい。当院が受入病院であれば原則として不要です。

⑥ 万が一、現場救急要請との重複となった場合はドクターヘリとしては現場救急要請を優先します。他のヘリでは現場活動ができないためです。他の搬送手段を検討して下さい。

＊より良い施設間搬送活動のため、随時施行錯誤を繰り返し今の型に固まってきました。その型でのマニュアルを作成中です。また、ここには簡単に紹介しています。不明な点は099-224-2101 鹿児島市立病院救命救急センター　吉原秀明までお問い合わせ下さい。

今後ともドクターヘリ施設間搬送の際にはなにとぞよろしくお願い申し上げます

鹿児島県ドクターヘリ　施設間搬送依頼チェックリスト

いつ？：今すぐ・　　月　　日（　）　時頃

依頼元：　病院 （　科　医師）	搬送先：　病院 （　科　医師）
患者情報	氏名：　（　歳）　男・女 生年月日：　年　月　日 住所：　電話番号：
関係者同乗	無・有（関係：　） ※原則同乗不可　必要に応じ相談可
診断	#1. #2. #3.
バイタル	血圧：　／　脈拍：　Sp02：　（酸素　L） 意識：　（鎮静　無・有）　体温：
処置	酸素：無・カヌラ　L・マスク　L・挿管下　L（自発　有・無） 点滴：①昇圧剤　無・有 ②鎮静剤　無・有 ③筋弛緩薬　無・有 ④その他 ＊シリンジポンプ　台
合流場所	①院内：　救急外来・病棟（　）・ICU ヘリ着陸場所：　病院敷地内・（　）公園・（　）学校 ＊その他の場所：着陸場所　→　依頼元への移動手段： 病院　→　ヘリ着陸場所への移動手段： ②院外：（　）公園・（　）学校・その他（　） （　）病院ヘリポート
メモ	

原則として家族は同乗させていませんが、フライトドクターの判断で同乗させることがあります。その際、ドクターヘリのシートアレンジを調整するため少々時間を頂くことがあります。

治療内容でドクターヘリ内の資器材を調整することがあります。（例えばシリンジポンプは何台必要など）

産科・周産期救急については各科専門医がいつでもフライトドクター・ナースとともに同乗できるシステムとなっています。

引き継ぎは、ランデブーポイントですることもあれば要請元病院内で行うこともあります。
両者で消防の動きが全く異なるため事例ごとに出動前の協議が必要です。

学術講演会の開催

『日本に根付け、移植医療』

脳死臓器移植は増えるのか？

藤堂 省 先生

外科部長
濵田信男

去る 2 月 2 日、北海道大学移植外科の藤堂　省特任教授をお迎えし、当院学術講堂にて特別講演が開催されました。「我が国の移植医療の現状と問題点」と題し、遅々として進まぬ日本の脳死臓器移植に対する先生の熱い思いが伝わってきた講演会でした。

ご承知の方も多いと思いますが、藤堂先生は米国のピッツバーグ大学、及び本邦において長年肝臓移植を中心とした移植医療に携わってこられ、昨年北海道大学第 1 外科教授を退任後、全国を行脚なされ脳死臓器移植の更なる推進に向けて情熱的な活動を続けておられる先生です。今回、「九州・沖縄移植医療推進協議会」の設立に向けて本県での啓蒙講演をご希望なされ、協議会鹿児島支部設立の足掛かりになればとの来鹿でした。当院が講演場所として選ばれたのは、私がピッツバーグ大学留学時、藤堂先生と共にお仕事をさせていただいた師弟関係にあることもさることながら、県内でもとりわけ救命救急センターの機能が充実し、また脳死の現場に携わる機会の多い脳外科スタッフが充足していることに白羽の矢がたったようです。

講演の要旨

「我が国における移植医療は、1997 年 10 月に臓器移植法が施行され、新しい時代の一歩を踏み出したが、実際に同法の下で実施された脳死下の臓器提供は、13 年間で 86 例にとどまり、様々な議論を経て制定された法律の意図が十分に果たされていない状況にあった。特に 15 歳未満の子供からの臓器提供の道は閉ざされたままで、海外で移植を受ける例も相次ぎ、そうした中、国際移植学会が 2008 年 5 月、自国内での臓器提供増加を求めるイスタンブール宣言を採択するなど我が国の対応がせまられ、2010 年 7 月、我が国の移植医療に大転換をもたらす改正移植法が施行され、国内での臓器移植の道が大きく広がることが期待された。同改正法では、脳死による臓器提供の要件が緩和され、従来は本人の書面による意思表示がある場合に限り提供が可能だったが、これに加え、本人の意思が不明な場合にも家族の承諾で提供できるようになった（15 歳未満でも親の承諾があれば臓器提供可）。以降 1 年 6 ヶ月の間に脳死

下臓器提供者は 70 例余りに増加したものの、アジア近隣諸国と比較しても極めて少ない数にとどまっているのが現状である。今後移植医療が真に我が国に定着していくためには、臓器提供に対する社会の理解を深め、ドナー（臓器提供者）になっていただける人を増やしていくことが重要で、同時に、患者が安心して手術を受けられるための様々な面からの支援システムの構築を急ぐ必要がある。加えて、医師、看護師をはじめとする医療関係者の研鑽、育成、また、ドナーの家族や医療機関、患者間の橋渡し役を担う移植コーディネーターの増員や研修の充実も急がれる。そこで、ドナーの確保や移植医療の普及・啓蒙活動を行うとともに、移植医療技術の研究推進及び患者への支援授業等の実施を目的とし、行政、大学、医療機関、医師、企業などが協力して活動を行える組織を構築し、その活動を通じて九州・沖縄地域が我が国の移植医療における先進地域として、どこまでも患者や家族の立場に立った日本の医療水準の引き上げの新たな役割を果たすことを期待する。」

講演を通じて最も感じたことは、脳死と臓器提供に関わる一般の方と医療側の認識のずれです。先生の経験から、臓器提供を前提とした臨床的脳死診断について、私共医療側が懸念しているほど一般の方の認知度は低くなく、9 割の人が理解を示され、最終的には臓器提供に賛同されるのは 60%だそうですが、それでもこれまで私が考えていたよりはるかに高い数値でした。当院でも先頃「脳死下臓器提供マニュアル」が制定され、今回の講演を機にさらに脳死臓器移植への関心が高まるものと確信しております。

今回の講演会に際しては、県と市の医師会の後援も得られ、会員の皆様にも広報していただきました。おかげさまで平日にもかかわらず、鹿児島大学の外科系の主だった教授、教室員の先生方をはじめ、コメディカルの方々も含め院内外から 165 名もの参加がありました。この場をお借りして関係各位の皆様に厚く御礼申し上げます。

鹿児島市立病院だより 第 12号

発行日： 平成 24 年月

発行者： 〒892-8580　鹿児島市加治屋町 20-17

上津原甲一　鹿児島市立病院長(事業管理者)

担　当： 医療連携室・広報委員会

ＴＥＬ： 099 - 216 - 3631　ＦＡＸ：099 - 216 - 3632

ＵＲＬ： http://www. kch. kagoshima. kagosima. jp

病院のホームページが新しく生まれ変わりました。

デザインを一新し、『情報を探しやすく、誰もが使いやすい』構成を目指しました。皆さまに、役立つ情報をタイムリーに発信していきたいと思いますので、ご利用いただきますよう、宜しくお願い申し上げます。

新しいホームページは、 ●病院ホームページ　●職員採用ホームページ　●ドクターヘリ紹介ホームページと、それぞれ独立しています。

＊＊病院ホームページの案内＊＊

病院ホームページは、ページ総数がおよそ 150 ページと多岐にわたりますので、各ページへの入り口を 4 つに分け、スムーズな情報の閲覧ができるように整理しました。

ⅰ)「患者の皆様へ」	～	外来・入院や面会・診療科目の案内
ⅱ)「医療関係の皆様へ」	～	医療連携室の利用、病院広報誌などの案内
ⅲ)「部門・センター紹介」	～	当院の各部門や専門センターの紹介
ⅳ)「鹿児島市立病院について」	～	当院の概要や実績等の紹介

＊＊新着情報の活用＊＊

新着情報(※1)は、誰向けの情報なのかを分類することで、個々の必要な情報を探しやすく設計していますので、是非ご活用ください。

＊＊見たい情報をより早く見つけるためには＊＊

●「サイト内検索」(※2)

すべてのページの画面右上部分に「サイト内検索」という入力欄があります。キーワードを入力して、必要なものが検索できます。

●「サイトマップ」(※3)の活用

ホームページ内にどんなページがあるのか一目で、解るよう一覧にした案内ページです。
見たいページを選んで、ダイレクトに閲覧することができます。

接遇研修を行いました。

総務課職員係

時代の流れとして、病院への患者様の要望は多様化、高度化しており、市立病院職員としても質の高いサービスを提供することが、重要な課題となっております。

このサービスとは、治療だけではなく、患者様とのコミュニケーション、対応についても含まれており、職員一人一人が相手の立場に立ち応対することが必要です。

また、病院での接遇とは、患者様と職員だけではなく、職員同士の人間関係にも重要で、職場の雰囲気が悪いとどうしても表情は暗くなり、患者様への応対へも影響が出る可能性もあります。

このように接遇と一言で言っても、相手に合わせた様々な気配りや応対を修得する必要があるため、例年、全職員を対象とした研修を行っています。

平成 23 年度の研修は、平成 24 年 2 月 7 日、当院学術講堂において、(有)プラスピュア 代表取締役 野口純子氏を講師にお招きし、指導して頂きました。

参加者は４３８名と前回行われた研修を上回る職員の参加がありました。

今回の内容は基礎的なことが主であったため、参加者も「何故今更」、「以前にも聞いた事がある」と思った職員も多数いたと思います。

ただ、知っていても、恥ずかしいと考えたりし、なかなか実践困難なことを、その重要性を再度認識し、今後の接遇において実践していく事が可能になると考え、基礎的な内容を中心に指導して頂きました。

ポイントとして「第一印象の重要性」、「接遇の心構え」、「ミニロールプレイング」が行われました。研修終了後出席者へアンケートでは、次のような感想がありました。

- 自分の態度を振り返り、相手の立場に立った対応を心掛けたい。
- 挨拶の仕方をもっと意識をし、相手が気持ちの良い挨拶にしていきたい。
- 顔の表情、言葉づかいの大切さを実感した。
- 笑顔、身だしなみ、心づかいに注意していきたい。

このように感想を見ると、今回の研修により接遇向上の大切さを更に理解できたものと実感しました。今後も様々な課題に応じた接遇研修を行い仕事のし易い職場環境の構築と市民へのサービス向上につなげていきたいと考えております。

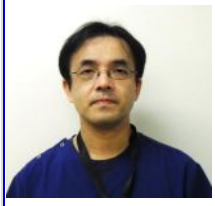
新任医師紹介

科名　循環器科科長
氏名　小川正一

4月より勤務させていただいております。
前任地は川内医師会立市民病院でカテーテルインターベンションを含め循環器全般で地域医療、救急医療を担っておりました。
当院でも、患者さんに応じた医療を、みなさんとチーム医療を通し努力したいと思います。
ご意見などありましたらどしどしぶつけて下さい。
よろしくお願いします。

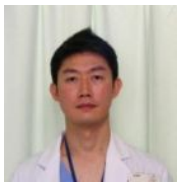
科名　歯科口腔外科科長
氏名　平原成浩

このたび、歯科口腔外科に赴任してまいりました。前任地では口腔外科に特化した疾患だけを扱っていましたが、市立病院ではあらゆる歯科疾患を診ていけるということで、充実感を持って毎日の診療に臨んでいます。まさに「五十にして天命を知る」ことができたと実感しており、自分がこれまで培ってきたものを一日も早く患者さんのために役立たせていけるように頑張りたいと思います。



科名　新生児科医長
氏名　中目和彦

4月1日より鹿児島大学病院小児外科より周産期医療センターに赴任しました。
平成14年に当院小児外科へ赴任して以来ですので約10年ぶりの市立病院です。
まだ電子カルテなどシステムに慣れないところですが、専門の小児外科を含め新生児医療に微力ながらお役に立てればと思っております。地域医療機関の先生方、皆様のご指導ご協力お願い申しあげます。



科名　整形外科
氏名　泉　俊彦

4月から赴任いたしました整形外科の泉　俊彦と申します。これまでは鹿屋市の小倉記念病院に3年半勤務しており、鹿児島市立病院には患者様転送などでお世話になっておりました。今後は受け入れる側なので地域の要望に沿えるようがんばりたいと思います。なれない分ご迷惑おかけすることも多々あると思いますが宜しくお願いいたします。

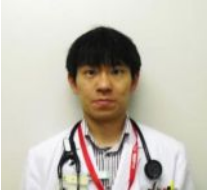
科名　小児科
氏名　渡邊健二

4月からお世話になっております、小児科 渡邊健二と申します。前任地、南九州病院では主に慢性期・慢性疾患を対象にすることが多く、リハビリを必要とする小児や、重症心身障害児者を対象にしてきました。当院はむしろ急性期を対象として、正反対の立場となります。慣れないことも多いのですが、ここで得られる多くを積極的に経験していきたいと思います。よろしくお願いいたします。

科名　泌尿器科
氏名　井口智生

平成24年4月より泌尿器科に勤務しております井口と申します。4年ほど前にも勤めておりましたので2回目の着任です。
今回は人工透析担当も兼ねておりますので入院治療が必要な腎不全患者さんの維持透析や、重症患者さんの血液浄化療法など必用がありましたらご相談ください。可能な限り対応いたします。
どうぞよろしくお願いいたします。

新任医師紹介



科名　内科
氏名　林　大輔

４月より当院内科へ着任しました林です。3月までは鹿児島大学病院神経内科病棟に勤務しておりました。医師になって12年目になりますが、そのうち6年間は、大学院、産業医、筋電図業務を行っていたので、病院勤務医としては6年目です。当院では神経内科全般はもちろん、糖尿病の診療にも携わらせていただきますのでよろしくお願いいたします。
甲南高校卒。趣味はオーディオです。

科名　整形外科
氏名　高野　純

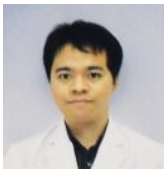
整形外科医として4月より赴任しました。
素晴らしい上司、スタッフに囲まれ、仕事できる環境に感謝しております。
宜しくお願い致します。

科名　外科
氏名　吉川弘太

平成24年4月より、外科医師として勤務させていただいております。
鹿児島の医療の中核を担う当院にて研鑽を積めることを大変うれしく思っております。
まだ不慣れな点が多く、皆様には多々ご迷惑をおかけするとは存じますが、チーム医療の一員としてまずはできることから確実にこなしていきたいと考えています。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

科名　消化器科
氏名　千堂一樹

４月から、消化器内科医師として勤務させていただいております。
医師として5年目、消化器内科は3年になります。
鹿児島市立病院は、初めての勤務であり、また、これまであまり救急当直の経験が無いため、不慣れな部分もありご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、精一杯尽力してゆきたいと思いますので、宜しくお願い申し上げます。



科名　皮膚科
氏名　久留光博

４月から当院に赴任いたしました久留光博と申します。昨年度までは、鹿児島大学病院で勤務していました。当院での勤務は、今回で2回目となります。
当院は、鹿児島の中核病院として、様々な疾患の方が来院され、非常にやりがいのある職場です。　皮膚科のことで、お悩みの方の助けとなるよう、鋭意診療にあたっていきますので、よろしくお願い申し上げます。

平成 24 年度　臨床研修医紹介

伊東夏子	初期臨床研修医で、鹿児島大学出身です。４月から、当院で研修させていただくことができ、不安もありますが嬉しく思っています。明るい性格と体力があることしか長所はありませんが、精一杯頑張りますのでよろしくお願いします。
石浦良平	はじめまして。研修医の中で一番黒い男が僕なので、「黒い→石浦」で覚えてください。 九大出身で６年間ラグビーに明け暮れていました。そのせいか、まだまだ勉強不足なところがあり、これから必死で努力しなければと焦っていますが、体力だけは自信があるので、何なりとお申しつけください。これから是非よろしくお願いします。
岡村俊介	琉球大学から来ました。皆様には大変迷惑をかけると思いますが、精一杯頑張りますので、よろしくお願いします。
栗本朋典	愛知県から来ました。ご迷惑をおかけする事もあると思いますが、どうぞよろしくお願い致します。
上坊翔太	鹿児島大学出身で、生まれも育ちも鹿児島です。部活はバトミントンをしていました。明るく、元気に、何事にも積極的に取り組んでいこうと思っているので、これからよろしくお願いします。
古賀洋一	佐賀大学から来ました。鹿児島は初めてですが、先輩の先生方から市立病院での研修の評判を聞いて決めました。一生懸命頑張りたいと思います。「おやっとさあ!」と自然に言えるように、溶け込んでいきたいと思います。よろしくお願いします。
塩川直宏	私は３０年ほど前に鹿児島市立病院で生まれました。この春、誕生したこの場所で、医師としての第一歩を踏み出せることに大きな喜びを感じています。一生懸命学ばせていただきますので、ご指導のほど、よろしくお願いします。
塩屋悠斗	初めまして、宮崎大学よりまいりました。生まれは薩摩川内市、海と山に囲まれる自然豊かな町で育ちました。大学生活を経て４月から当院で研修させていただくことになりました。少しずつでも医師として学ぶべきことを身につけていけるよう精進していきたいと考えています。よろしくお願いいたします。

篠原あさの	山口大学から来ました。出身は鹿児島で鶴丸高校でした。大学時代は硬式テニスをやっていました。テニスをされている方は声をかけて頂けると嬉しいです。皆さんにご迷惑をおかけすることが多いと思いますが、一生懸命がんばりますので、よろしくお願い致します。
竹下沙和子	初めまして。県外の大学に通っておりましたので、６年振りに故郷鹿児島へ戻って参りました。まだ右も左もわからず、ご迷惑をおかけすることがあると思いますが、鹿児島市立病院で医師としての一歩を踏み出し、精一杯がんばりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。
田中詩織	今年度より市立病院にて研修させて頂きます。出身も大学も東京で、鹿児島での生活は初めてです。色々と教えて下さい。また、仕事の面ではご迷惑をおかけする事もあるかと思いますが、ご指導頂けますと幸いです。よろしくお願いします。
谷口雄大	初めまして。今回は初期研修医として働かせて頂きます。生まれも育ちも鹿児島の生粋の薩摩隼人です。趣味はジョギング・ゴルフ・カラオケです。”愛と感謝”を忘れずに精一杯市立病院、そして鹿児島に尽くしたいと思います。まだまだ若輩者ですが、何卒よろしくお願い致します。
寺園和哉	鹿児島大学から来ました。医師としても社会人としても新米ですのでたくさんのご迷惑をおかけすると思いますが、精一杯がんばります。素晴らしい研修生活を送りたいと思っています。皆様よろしくお願いします。
松永章吾	研修医１年目です。親が書道の先生をしておりますが、子供も字がキレイとは限りません。ですが、出来る限りキレイな字を書くよう心掛けます。未だに社会人になった実感が沸かず、焦ります。どうぞよろしくお願いします。
松山　緑	今回、初期研修医として働くことになりました。まだ何も分からない状態ですが、何事も積極的に挑戦し、日々成長していけたらなあと思っています。”笑顔と不屈の精神”で乗り切りたいです。ご迷惑おかけするかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

師長の指導を受けながら研修生同志で採血
・・・患者さんの気持ちが解る一瞬・・・

本年度は、１５名の卒後臨床研修医が、研修することになりました。一週間のオリエンテーション期間を経て、それぞれに、各部署で、本格的な研修へと入ります。

麻酔科指導医による BLS 研修

新人看護師を迎えて

副総看護師長（教育担当） 園田良子

今年度、新人看護職員を３８名迎え、病院もパワーアップしました。継続教育の中の新任者教育では、急性期病院として医療安全の確保にポイントを当て教育プログラムを企画しています。

研修内容は、『患者の安全と責務』として、①看護記録　②中央材料室の業務と滅菌物の取り扱い　③病院情報システムの概要　④医療事故防止⑤感染管理　⑥与薬の基礎知識　⑦ME 機器の取り扱いの７項目について、集合研修を５日間行いました。特に医療安全に関しては、事故防止に対するリスク感性を高めるための KYT の事例分析や感染予防対策の知識の習得、手洗い・個人防護具着脱演習、基本的な看護技術の中から、静脈血採血と注射の基本的手技の演習を行いました。

研修終了後、新人からは、「不安が少し軽減した。」「演習を通してイメージできた。」「組織の一員として安全を守ることの大切さがわかった。」などの意見が聞かれました。各部署の新人教育指導体制は、チームサポート制を取り入れて、新人看護師１人に実地指導者１人を決めてチーム全員で新人看護師をサポートしています。

新人看護師の研修風景、教育プログラムを紹介いたします。

講 義 風 景

静脈血採血演習

マスク・エプロン着脱演習

新採用時看護師研修プログラム（平成24年度）

月/日	４月２日	４月３日	４月４日	４月５日	４月６日
曜日	月	火	水	木	金
場所	視聴覚室	視聴覚室	視聴覚室	視聴覚室	視聴覚室
8:30 9:00	集合 ・看護部長挨拶 ・自己紹介 ・病院概要 ・看護科概要 ・継続教育	講義 患者の安全と看護師の責務① ・看護記録の概念	講義 患者の安全と看護師の責務④ ・医療事故防止	全職員研修	講義 患者の安全と看護師の責務⑥ ・与薬の基礎知識
11:00	院内オリエンテーション	講義 見学 患者の安全と看護師の責務② ・中央材料室の業務と滅菌物の取り扱い	・医療事故防止	全職員研修	演習 患者の安全と看護師の責務⑦ ・ME 機器の取り扱い
13:00	講義 演習 ・接遇について	講義 患者の安全と看護師の責務③ ・病院情報システムの概要	講義 患者の安全と看護師の責務⑤ ・感染管理 ・職業感染防止	全職員研修	演習 ・静脈血採血の方法と実際 ・輸液ラインの作成 ・6R に応じた手順
15:00 17:15	講義 ・医療の現状と看護師の役割	講義 ・看護必要度	演習 ・手洗いの実際 ・マスク、エプロンの着脱法	全職員研修	演習 ・薬剤と注射器の取り扱い ・薬剤投与の方法

おむつ交換演習

注射準備演習